

第2回中間報告

(報告期間 2020 年 12月 23 日～2021年3 月 30 日)

国際ロータリー第 2710 地区

2020-2021 年度 グローバル補助金奨学生

真加部 湧大

報告書提出日：2020年3月30日

派遣クラブ：福山北ロータリークラブ

カウンセラー：奥野 一成様

受け入れクラブ：Rotary club of Newham

カウンセラー：Mr. Emil Petrov

留学先：University College London

専攻：Master of Development Education and Global Learning

1. 学業の報告

Spring Semester では、・Development Education in the Era of Globalisation ・Teaching Controversial Issuesの2つのモジュールを履修しました。

Development Education in the Era of Globalisationでは、グローバル化によって社会がどのように変化しているか、教育がどのように変化していく必要があるか、また、Global citizen・Global citizenship Educationとは何か、具体的にどのような実践を行っていくことが出来るかとそれをどう評価していくか、といった内容の講義を受け、多様なバックグラウンドを持つ学生とディスカッションする中で、考えを深めていきました。様々な視点や考え方を学習する中でそれぞれの学生自身がGlobal citizenとGlobal citizenship Educationとは何かを模索し構築し続けることが一つの課題となっており、これまでの多様な実践を見ながら、これからの学校教育のあるべき姿や自身ができることすべきことについて考えることが出来る機会となりました。

最終課題では、インドに拠点があり、Global Citizenship EducationとSEL (Social Emotional Learning [自尊感情と対人関係能力の育成を目的とする科学的根拠 (脳科学、臨床心理学、発達心理学など) に基づく教育アプローチ]に焦点を置いて活動しているUNESCO-MGIEPの学習プログラム)) の分析と、日本の学校での応用可能性についてまとめることとしました。

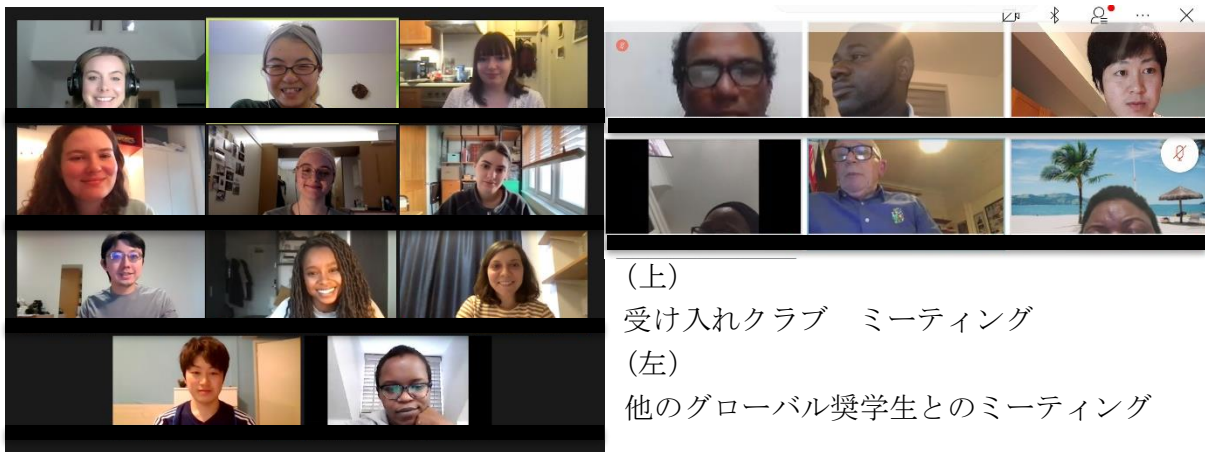
Teaching Controversial Issuesでは、社会問題に関するディスカッションの在り方について学習しました。様々な社会問題を多様な国、宗教、文化の視点から意見を出し合いながら、ディスカッションの目標とは何か、話し合う内容の切り取り方、ファシリテーターがどこまで自身の意見を言ったり介入したりするか、等といったことについて学習しました。Final Assignmentでは、インターネットにおける匿名コメントの是非に関するディスカッションの授業をどうデザインできるか、学習者がディスカッション後にこの問題や関連する問題を自分事としてとらえ、多様な考え方に寛容になっていけるためにファシリテーターがどのようなことに留意すべきか、といったことを、いくつかの国の事例を参照しながらまとめる予定です。

Dissertationでは、参加型学習という、学習者にとっては身近に感じづらい開発課題を、フォトランゲージやロールプレイ等を活用し主体的にリフレクションや意見共有をしながら学習を進めていく手法を学び、実践し続けておられる教師の意識変容について調査します。これまで参加型学習を受講した学生の調査はあるものの、それを実践し続けている教師の意識・態度変容についての調査はほとんどないため、それを明らかにすることで今後の開発教育・世界市民教育を担う方へのモチベーションや、参加型学習の持つ可能性と限界等の理解につなげていきたいと思っています。

2. 受け入れロータリークラブとの関わり

1月にNewham クラブでのオンライン会合に1度参加し、メンバーの方々と交流をすることが出来ました。その後はなかなか会合も開かれなような状況でしたが、イギリスに留学中の他のグローバル奨学生と協働してRotaract Global Connectors というグループを作り、月に2, 3度Zoomを通して集まり、近況を報告し合ったりコロナ禍でも奨学生としてできる活動について話し合ったりしています。ロンドンの現地団体と協力した移民への英語や衛生面

での支援、衣服の寄付、また毎週奨学生が交互に自身の問題関心や目標を紹介し合い、多様な専門分野で勉強しているメンバーから意見をもらえ応援し合える場づくりなどをしていくことが決まり、現在実施に向けて準備を進めています。



3. 生活面

生活には徐々に慣れ、相談し合える友人も一人ずつ増やすことが出来ました。ロータリー奨学生のつながりのおかげで、自身のコース以外の友人も数多く作ることが出来、様々な分野の方々の視点を学ぶことが出来ています。詳しく知りたいと思った内容があったり、話を聞いてみたい方がいた際は積極的にコンタクトを取り、情報共有をとったりするようになりました。同じマンションに住む方の多くと顔見知りになり、課題の添削を喜んでくださる方や、よく夕食を提供してくださる方などもいて本当に助かっています。

ロンドンは歩いて行ける範囲に様々な美しい建物や景色があり、現在は海外からの観光客もいないため、気晴らしにランニングをした際に写真を撮ることが趣味になっています。

(ランニング圏内にハリーポッター、ノッティングヒルやパディントンなど映画の舞台、イギリス皇室、シャーロック・ホームズ、ビートルズ等に関するスポットや自然豊かな公園も多くあつたりします。) 紹介したい素敵な景色が数多くあるのですが、抜粋して何枚か共有させてください。また、イギリスの多様な紅茶、ヨーロッパの多様で安価なチーズ、ハム、ワインなどの飲み比べ、食べ比べをすることが楽しみになっています。

主体性が発揮できる心理的安全性のあるコミュニティづくりや、自分自身も他者への対応力を高めていきたいとの思いから、イギリスで生み出されたインプロヴィゼーション（即興演劇）の勉強と実践を始めました。相手の表現に対して、基本的にそれを受け入れながら物語を即興で作っていく、というスタイルのアクティビティーがいくつかあり、自身が今後コミュニティのオーガナイザーやファシリテーターとなっていく上で大切な視点や表現を、他者と実際に即興演劇を行う経験を通して学ぶことが出来ています。



4. 今後の目標

今後、Teach for Allという、世界中の教員が集うネットワークへの参加や、自身の留学先であるUCLとイギリス・日本の高校生をつなぐイベントの運営メンバーとなる機会を得ることが出来ました。今学んでいる内容やそこで出来たつながりを、子どもたちにどのように還元していけるのかということについても引き続き考えていきたいと思っています。

大分英語でのディスカッションやリーディングにも慣れてきましたが、まだまだネイティブの方と比べると同じ速さで理解しきれない自分があります。現地の方と同じスピードで文章が読めて把握できたり、全て聞き取れて返答ができたりすることを目指す意識を忘れず、日々の課題や生活と向き合っていきたいと思っています。

